



## 「いじめ根絶強化月間」から

## 「心のきずなを深める月間」へ

～ “いじめ” かどうかではなく、傷ついている人がいるということ～

今月は熊本市のすべての小学校で「心のきずなを深める月間」の取り組みが行われています。昨年度までは「いじめ根絶強化月間」という名称で取り組んでいました。なぜ、名称が変わったのでしょうか。今月の学校集会では、そのことについて子どもたちと一緒に考えました。その内容をご紹介します。

まず、次のような場面について考えてもらいました。

仲の良い3人組と一緒にキャッチボールをして遊んでいた時に、Aくんがボールを取り損ねました。すると、2人は、

「Aくんって、ボールとるの下手だよね」

「ほんと、下手だよね。ボール見えてないんじゃない」

「あっはっはっは」

と、笑いました。さて、これは“いじめ”だと思いますか？

本人たちは次のように言っています。

「いえ、いじめじゃなくて、いじってただけです。いつも仲いいから、これぐらいはよくふざけて言ってます。」



集会では、多くの子どもたちは、これは“いじめ”だと答えました。さて、これは“いじめ”でしょうか、それとも“いじり”でしょうか？

そもそも、“いじめ”かどうか決めるのは誰なのでしょう？

そう、“いじめ”かどうか決めるのは、傷ついている本人です。子どもたちには次のように話を続けました。

**本当に大切なのは、「いじめ」か「いじり」かではありません。そこに傷ついている人がいるということです。**

そして、本当に深刻でひどい場合、本人は怒ることすらできずに、笑っていることがあることを知っていますか。みんなは、嫌なことを言われたときにちゃんと嫌な気持ちを伝えられていますか。逆に、嫌なことを言ってしまった時に、相手はちゃんと怒っているのでしょうか。もし、怒っていないとすれば、その関係は友達とよべるものではないかもしれません。

今は、いじめをなくそうという運動が日本全国ですが、そのきっかけになった事件がまさにそうでした。いじめていた人はもちろん、まわりにいた多くの人が、傷ついている人が亡くなるまで、ただの悪ふざけだと思っていたのです。その人は、本当は傷ついていたのに、だれにも相談できずに亡くなりました。

「いじめ根絶」というと、いじめかどうか問題になりますが、大切なのはいじめかどうかではなく、傷ついている人がいるということです。だから、みんなの心のきずなを深めて、傷ついている人に気づき、みんなで助け合うことができるようになるために、「心のきずなを深める」月間になったのだと思います。

私が以前学級担任をしていた頃も、“いじめ”という言葉が出た瞬間「えっ、“いじめ”なんですか？ そんなことで“いじめ”になるんですか？」という反応が返ってくるがありました。そうすると、傷ついている子どもたちではなく、“いじめ”かどうかの議論になり、子どもたちの関係修復の道のりが遠くなります。

山東小学校では、月に一度、子どもたちに「きずなアンケート」をとって、嫌だったことや悩んでいることについて話を聴いています。そこであがった事案（嫌なことをされた等）についてはすべて“いじめ”として計上し教育委員会に報告しています。もちろん、些細な事案がほとんどですが、“いじめ”かどうかではなく、傷ついている子どもたちを中心に据えて対応するためです。時々新聞で“いじめ”件数が高止まりしているという報道がありますが、そういったことも理由の一つとしてあることをお知りおきください。

さて、学校集会では最後に次のようにまとめました。

では、どうすれば心のきずなを深めて、傷ついている人を減らすことができると思いますか。今月は特にそのことについて各クラスでもぜひ話し合ってみてください。校長先生も考えてみました。

実は、最初から誰かを傷つけようと思っている人はほとんどいません。自分のやりたいこと、嫌なことがあった時に、自分のことしか見えていないことが多いのです。そのことが結果的に友達を傷つけてしまっています。ですから、ほんの少しずつでいいので、自分の周りの人の心に気づけるようになりましょう。みんながみんなのことを思いやれるようになれば、結果的に自分も思いやってもらえるようになります。

そして、お互いが使う言葉を大切にしましょう。優しい言葉は優しい心を育てます。そしてそこからさらに優しい言葉が生まれ、人の心を元気にしてくれます。言葉には魂が宿るので、それを“言霊”といい、昔から大切にされてきました。

そんな言葉の大切さをよんだ詩がありますので、最後に紹介します。

「ひとつのことば」 北原白秋

ひとつのことばで けんかして  
ひとつのことばで なかなかおり  
ひとつのことばで 頭が下がり  
ひとつのことばで 心が痛む  
ひとつのことばで 楽しく笑い  
ひとつのことばで 泣かされる  
ひとつのことばは それぞれに  
ひとつの心を持っている  
きれいなことばは きれいな心  
やさしいことばは やさしい心  
ひとつのことばを大切に  
ひとつのことばを美しく



最近「あおられた」という言葉もよく聞くようになりました。「あおり」の定義は難しいですが、純粋に勝利を喜ぶことは「あおり」とは言いません。私は、嫌がらせを目的として執拗に挑発する行為を「あおり」ととらえています。判断は難しいですが、「嫌がらせをしない」とことと、スポーツマンシップの観点から、一度お子さんと話をされてみてはいかがでしょうか。